私たちの町の文化財

■第5話　城山東麓の地蔵板碑

こちらの板碑は、西区上代の城山東麓、住宅地に佇んでいます。本来は上代の宅地内にあったものを、戦災の影響で現在地に移したことがきっかけで今に至ります。現在は所有者のご好意で石の覆屋が建てられ、大切に守られています。碑正面中央には円光背が描かれた地蔵菩薩が立像で表現されています。地蔵の上には飛雲が表現されていて、足元にも同じく飛雲が描かれています。このことから、この碑は地蔵菩薩が来迎する場面を表現していると推測されます。来迎図は如来を中心によく表現されますが、地蔵菩薩が来迎する場面は熊本市内でも珍しく大変貴重な資料です。正面左下には「大永四年十月廿一日」とあることから、西暦1524年に造られたことがわかります。第4話で紹介いたしました城山南麓板碑が大永6年（1526）の年号であったことからも、この時期によく板碑が造られたことが見て取れます。正面右下には「権少僧都■■敬白」とあります。権少僧都とは、仏教における僧の位を表します。残念ながら僧の名は判読できませんが、この板碑の造立に関わった人物とみられます。造立に関わった僧を中心に、この地域では地蔵菩薩を厚く信仰していたことから、来迎図という稀な表現が採用されたと推測されます。

熊本市文化振興課　藤島　志考氏

来迎図（らいごうず）とは臨終のとき、仏陀や菩薩が浄土の世界から人間世界へ迎えに下降して来る姿を描いたものです

平成29年5月　みにくま第169号に掲載